

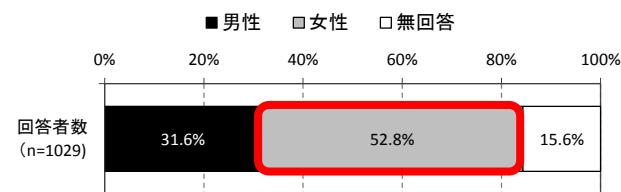
## 1. アンケート調査の概要

平成30年6月15日（金）郵送配布（6月30日〆切）

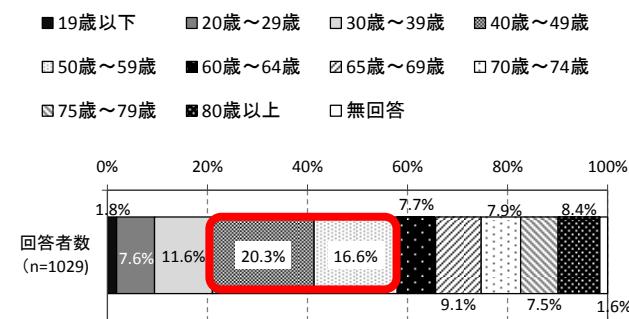
配布数：3,000票 回収数：1,029票 回収率：34.3%

## 2. 回答者の属性等

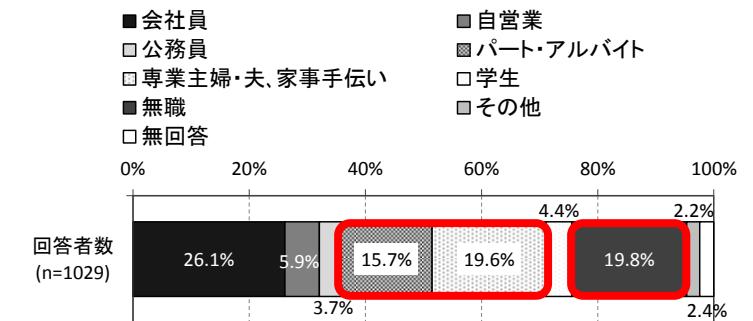
(1) 性別 回答者は女性の方が多かった。



(2) 年齢 40、50歳代からの回答が多かった。

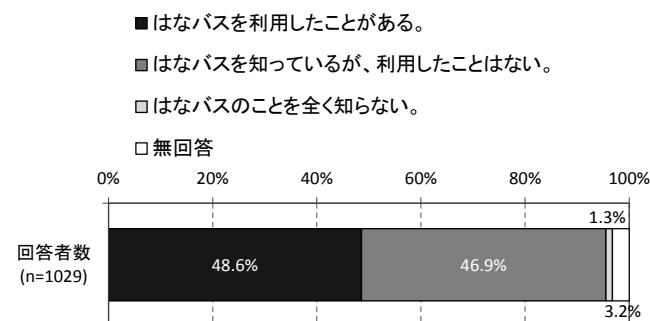


(3) 職業 会社員、無職、専業主婦等の方の回答が多かった。

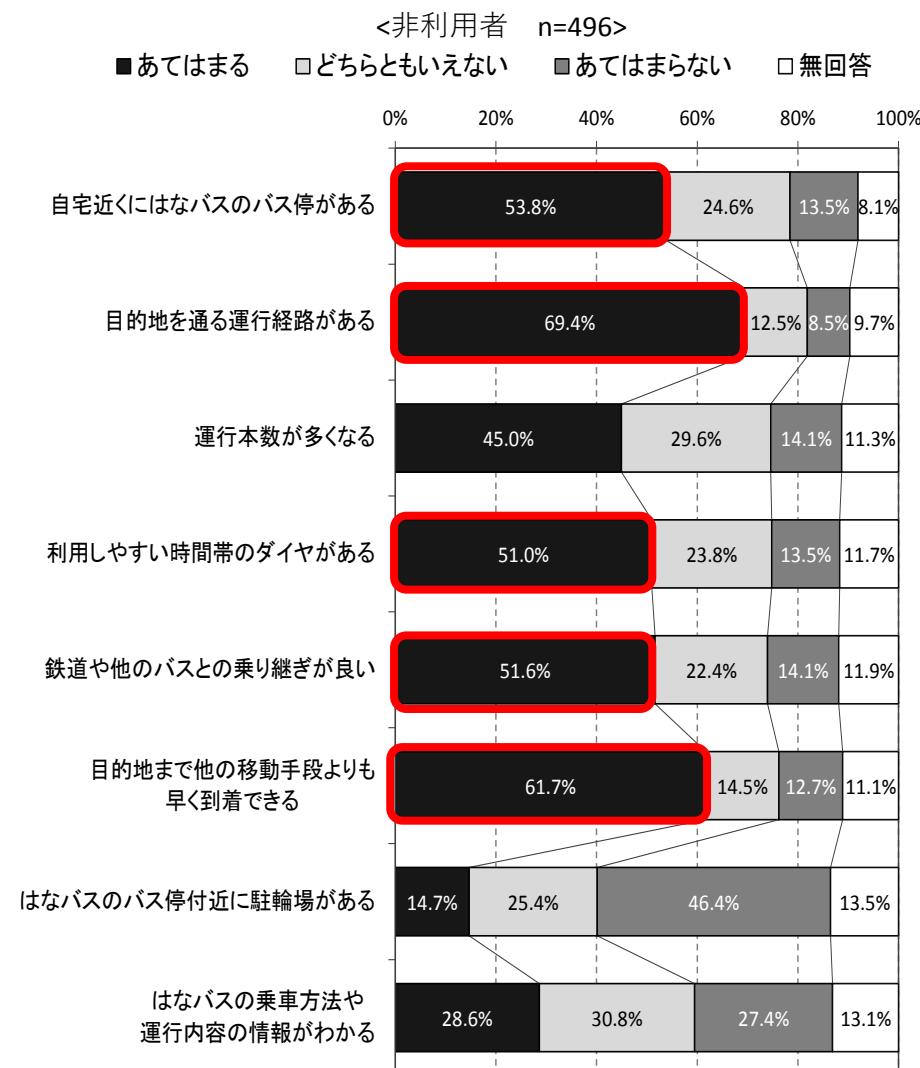


## 3. はなバスの認知度

「利用したことがある」「知っている」が約95%とはなバスについて広く認知されている。



## 4. 非利用者のはなバスの利用条件



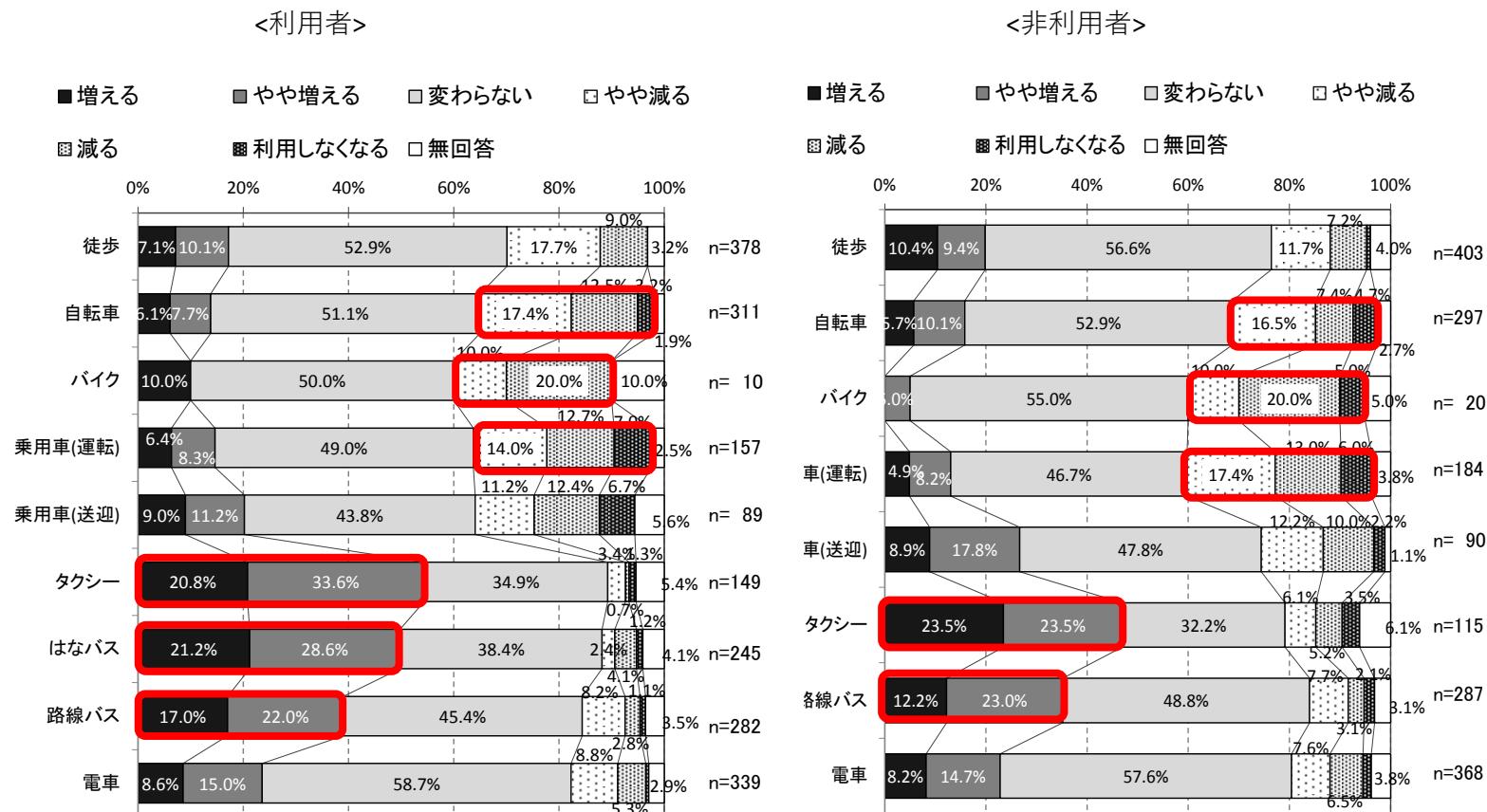
非利用者が利用する条件として回答が多いのは、以下の5項目であった。

- ・自宅近くにはなバスのバス停がある
- ・目的地を通る運行経路がある
- ・利用しやすい時間帯のダイヤがある
- ・鉄道や他のバスとの乗り継ぎが良い
- ・目的地まで、他の移動手段よりも早く到着できる。

## 5. 現在の移動手段から見た10年後の利用状況

利用者、非利用者ともに  
現在の移動手段が「タクシー」「路線バス」「はなバス」の方は、  
10年後の利用が「増える」「やや増える」と回答した割合が  
他の移動手段に比べ多い。

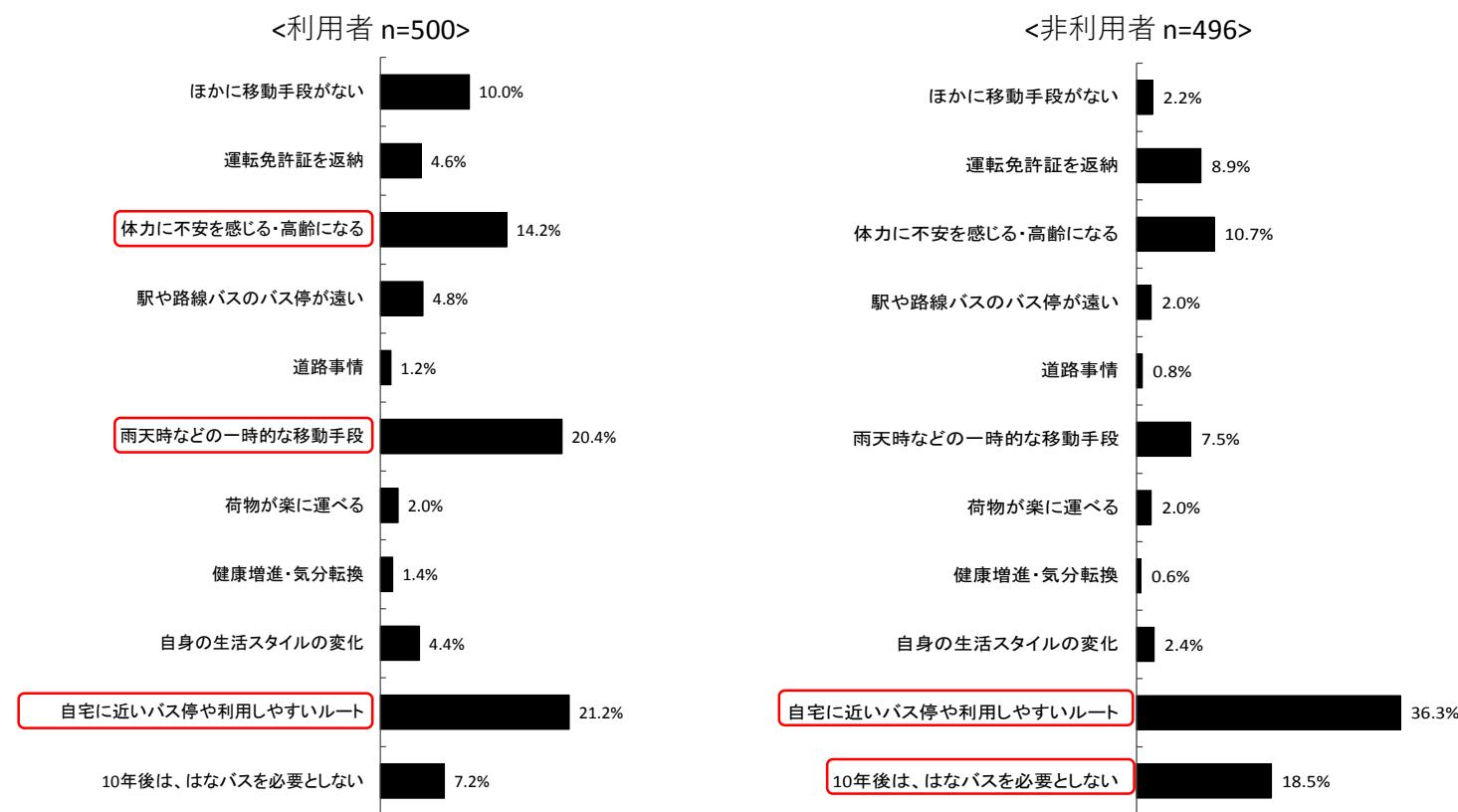
現在の移動手段が「自転車」「バイク」「乗用車（運転）」の方は、  
10年後「やや減る」「減る」「利用しなくなる」と回答した割合が  
他の移動手段に比べ多い。



## 6. 10年後にはなバスを必要とする理由

利用者、非利用者ともに、  
「自宅に近いバス停や利用しやすいルートがあれば必要」が最も多い。

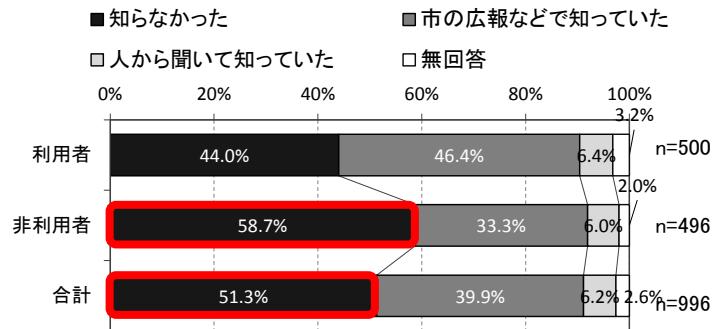
利用者は、「体力に不安を感じる、高齢になる」「雨天時などの一時的な交通手段」が次に多いが、  
非利用者は、「10年後もはなバスを必要としない」の回答が次に多い。



# 7. 運行補助について

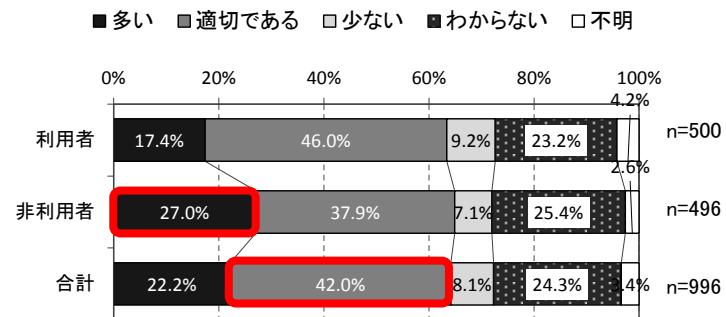
## (1) 運行補助の認知度

約5割の方が運行補助を「知らなかった」と回答しており、その割合は非利用者が多い。



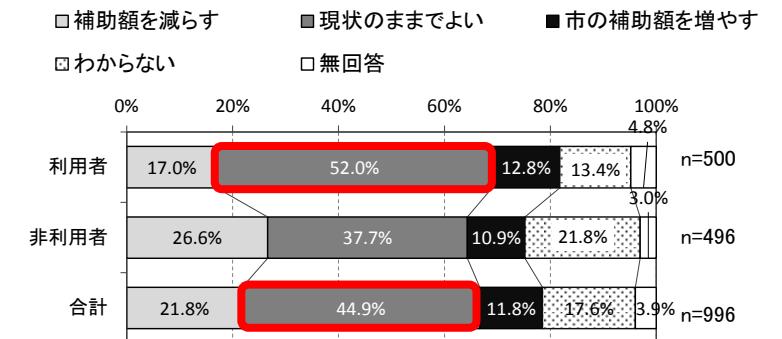
## (2) 運行補助額の適切さ

約4割の方が「適切である」と回答しているが、非利用者では約3割の方が「多い」と回答している。



## (3) 運賃と運行補助との関係性

約4割の方が「現状のままでよい」と回答しており、利用者では5割を超えている。



# 8. 運賃収入・運行経費・市の施策や補助額に関する考え方

- ・ア) はなバスを自分や地域住民で支えた方が良いとの回答が多いが、非利用者は利用者に比べ「あまりそう思わない」「そう思わない」の割合が多い。
- ・イ) 利用者、非利用者ともに同じ傾向にあり、運賃の値上げで支えたほうが良いとの回答が多い。
- ・ウ) ルートの短縮など運行経路を見直すことについては利用者、非利用者で意見が分かれており、特に利用者からの「あまりそう思わない」「そう思わない」の割合が多い。
- ・エ) 減便などの運行ダイヤを見直した方が良いとの回答が多く、特に非利用者の割合が多い。
- ・オ) 利用者、非利用者ともに同じ傾向にあり、市の補助額を増やして対応した方が良いという意見が多い。

